

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコルの提出が必須です
プロトコルがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	Pembrolizumab+mFOLFOX6
診療科名	腫瘍内科
診療科責任者名	大山 優
適応がん種	治癒切除不能な進行・再発の胃癌
保険適応外の使用	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
入院外来区分	<input checked="" type="checkbox"/> 入院 <input type="checkbox"/> 外来

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	Ga-52
登録日・更新日	2024年6月25日
削除日	
出典	キイトルーダ点滴静注100mg審査報告書
入力者	船木 麻美

投与順に記入(抗がん剤のみ)

	薬剤名:一般名 (薬剤名:商品名) 希釈液	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
No.1	ペムブロリズマブ(遺伝子組換え) (キイトルーダ点滴静注)	100mg	400mg/body	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他()	30分	day1
	生理食塩液	100mL *1				
No.2	オキサリプラチン (オキサリプラチン点滴静注)	50mg、100mg、 200mg	85mg/m ²	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他()	2時間	day1, 15, 29
	大塚糖液5%	250mL				
No.2	レボホリナートカルシウム (レボホリナート点滴静注)	25mg、100mg	200mg/m ²	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他()	2時間	day1, 15, 29
	大塚糖液5%	250mL				
No.2	フルオロウラシル (フルオロウラシル注)	250mg、1000mg	400mg/m ²	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他()	bolus	day1, 15, 29
	生理食塩液	50mL				
No.2	フルオロウラシル (フルオロウラシル注)	250mg、1000mg	2400mg/m ²	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他()	46時間	day1, 15, 29
	生理食塩液					

1コースの期間	42日
投与間隔の短縮規定	<input type="checkbox"/> 短縮可能(日)・ <input checked="" type="checkbox"/> 短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%

減量・中止基準	<p>【減量基準】 好中球減少症 Grade3以上の場合、Grade2に回復するまで中断。回復後は1段階減量して再開 血小板減少症 Grade2以上の場合、Grade1に回復するまで中断。回復後の用量調節は下記の通り Grade2: 1段階減量して再開 7日以上Grade2が継続した場合はGrade1に改善後、オキサリプラチンは2段階減量 Grade3: 1段階減量して再開 7日以上Grade3が継続した場合はGrade1に改善後、オキサリプラチンは2段階減量 Grade4: 2段階減量して再開 7日以上Grade4が継続した場合はGrade1に改善後、オキサリプラチンは2段階減量 末梢神経障害 Grade2: Grade1に回復するまで中断。回復後はオキサリプラチンを1段階減量して再開 Grade3以上: オキサリプラチンは中止し、レボホリナートとフルオロウラシルのみ継続 消化器毒性 Grade2以上の下痢: Grade1に回復するまで中断。回復後は1段階減量して再開</p> <p>【中止基準】 下記有害事象を認めた場合は、中止を考慮すること。 ・Grade4以上の知覚障害 ・Grade3以上の皮膚粘膜反応 ・Grade3以上の血小板減少 ・Grade3以上の肝機能異常(AST、ALT、T-Bil) ・CCr<30mL/min ・Grade3以上の薬剤性過敏症および注入反応</p>
催吐性リスク	中等度 制吐療法は「がん化学療法における制吐療法の標準化」を参照する
前投薬	ファモチジン注20mg+クロルフェニラミン注10mg
支持療法(その他)	なし
その他の注意事項	HER2陰性の患者に投与すること。 術後補助療法における有効性及び安全性は確立していない。 *1: 日局生理食塩液又は日局5%ブドウ糖注射液の点滴バッグに注入し、最終濃度を1~10mg/mLとする。 ・インラインフィルター(0.2~5µm)を使用して投与。 【免疫チェックポイント阻害薬有害事象対応マニュアル】を参照

用量	1段階減量	2段階減量
オキサリプラチン	70 mg/m ²	50 mg/m ²
レボホリナート	150 mg/m ²	100 mg/m ²
フルオロウラシル(bolus)	300 mg/m ²	200 mg/m ²
フルオロウラシル(持続)	2000 mg/m ²	1600 mg/m ²